

## 文部科学省シンボルマーク

表紙下部に掲載している文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し、その使命を見失うことなく、誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は、社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に、親しみやすい簡潔なデザインからは、人、地球など、様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として、「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志、品格と知性、「空色」は誠意と未来への広がりを意味しています。

このシンボルマークは、国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として、平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は、このマークに込められた意味を忘れることなく、任務に取り組んでまいります。



- 写真① 車いすテニス男子シングルスで2大会ぶり3個目の金メダルを獲得した国枝慎吾（くにえだ しんご）選手
- 写真② 新種目のスケートボードストリート女子で金メダルを獲得し、日本オリンピック史上最年少の13歳で金メダリストとなった西矢椛（にしや もみじ）選手
- 写真③ 体操男子個人総合で金メダルを獲得した橋本大輝（はしもと だいき）選手
- 写真④ パラリンピック初出場ながら自転車（運動機能障害C1-3）2種目で金メダルを獲得し、日本パラリンピック史上最年長の50歳でメダリストとなった杉浦佳子（すぎうら けいこ）選手
- 写真⑤ 日本選手団で金メダル1号となった柔道男子60kg級 高藤直寿（たかとう なおひさ）選手
- 写真⑥ 競泳女子背泳ぎ（身体障害S2）で銀メダル2つを獲得し、日本パラリンピックで史上最年少の14歳でメダリストとなった山田美幸（やまだ みゆき）選手